

別紙

日本化薬株式会社福山工場温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

日本化薬株式会社福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市箕沖町126番地

(3) 業種

1634 環式中間物・合成染料・有機顔料製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成8年度(1996年度)を基準とする平成23年度(2011年度)から平成27年度(2015年度)までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況 《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
			平成8年度	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
エネルギー 起源CO ₂	35,911	23,923 33.4	17,506 51.3	14,597 59.4	15,361 57.2	14,254 60.3	12,636 64.8
非エネルギー 起源CO ₂	1,290	2,173 -68.4	1,045 19.0	894 30.7	689 46.6	721 44.1	2 99.8
メタン	41	30 26.8	0	0	0	0	0
一酸化二窒素	123	50 59.3	14 88.6	16 87.0	166 -34.9	103 16.3	119 3.3
フロン類	0	0	0	0	0	0	0
温室効果ガス 実排出量総計	37,365	26,176 29.9	18,565 50.3	15,507 58.5	16,216 56.6	15,078 59.6	12,757 65.9
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	平成27年度も高効率トランスの採用、工場の集中生産による稼働時間の削減、焼却炉の廃止による灯油使用量の削減、蒸気ライン・圧力の統廃合、放熱ロスの削減、電力のピークシフト等の改善による省エネ効果が大きく出た。						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
			平成22年度	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費 原単位(原油換 算kl)	0.6806	0.6398 6.0	0.6844 -0.6	0.6569 3.5	0.6171 9.3	0.5926 12.9	0.4874 28.4
実績に対する 自己評価	生産高の好調と省エネ努力の効果が寄与した結果となった。						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	都市ガス使用量の6.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> 蒸気ラインのロス削減 (Bエリアの圧力の1系列化) 洗浄温水等の低温化 廃液処理の蒸気量削減 (冬季の曝気槽温度の低温化及び放熱の防止) 焼却炉の廃止による灯油使用量削減 工場の集中生産による工場稼働時間の削減
2	電気使用量の削減	電気使用量の5%削減	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ型機器への変更 (大型コンプレッサーの更新と効率化) 高性能インバーターの設置 照明のLED化 (125灯) 冷暖房温度の適正管理・他 昼休憩等の消灯 反応攪拌時間短縮検討等 変電設備の高効率化 (高効率トランスの採用) 工場の集中生産による工場稼働時間の削減
3			.
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。